

ディプロマ・ポリシー&学修成果指標 ◎=学修成果の修得ために特に重要な科目 ○=学修成果の修得ために重要な科目 △=学修成果の修得のために望ましい科目		1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。	2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。	3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身に付けている。	4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身に付けている。	5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。	6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。	7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。
リテラシー科目	英語コミュニケーションIA	○		◎		○		
	英語コミュニケーションIB	○		◎		○		
	英語コミュニケーションIC	○		◎		○		
	英語コミュニケーションID	○		◎		○		
	英語コミュニケーションII 基礎プレゼンテーション	○		◎		○		
	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	○		◎		○		
	英語コミュニケーションII 基礎エッセーライティング	○		◎		○		
	英語コミュニケーションII 応用エッセーライティング	○		◎		○		
	情報処理概論	○			◎		○	
	ITリテラシー	◎		◎		○		
コンピュータリテラシー	○			◎			○	
ビジネスリテラシー	○		◎	◎				
日本語表現法	○		◎	○				
教養基礎科目	科学と人間	○			○		◎	
	基礎化学	○			○		◎	
	基礎生物学	○			○		◎	
	物理と自然法則	◎			◎		○	
	地球の科学	○				◎	◎	
	数学入門	◎				◎	○	
	データサイエンス入門	◎				◎	○	
	社会調査基礎論	◎				○	○	
	日本国憲法	◎				○	◎	
	法学	◎				○	○	
	政治学	◎		○			◎	
	経済学	◎		○			○	
	倫理学	○		○			◎	
	哲学	○		○			◎	
	文学	○		○			◎	
基礎ジェンダー学	◎					◎	○	
心理学	○		○				◎	

ディプロマ・ポリシー&学修成果指標 ◎=学修成果の修得ために特に重要な科目 ○=学修成果の修得ために重要な科目 △=学修成果の修得のために望ましい科目		1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。	2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。	3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身に付けている。	4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身に付けている。	5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。	6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。	7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。
課題別 教養科目	生活と社会福祉	○		○			◎	
	現代生活論	○		○			◎	
	環境と健康と安全	○		○			◎	
	自然災害と防災の科学	○		○		◎		
	平和論	◎		○			○	
	現代人権論	◎				○	○	
	ジェンダーとキャリア					◎	◎	○
	労働と人権	◎				○	○	
	地域とグローバリゼーション	◎		○			○	
	家族関係論	○		○			◎	
	異文化理解海外フィールドワーク	◎		◎			○	
	人権教育論	◎				○	○	
健康・スポーツ科目	健康スポーツ科学Ⅰ	○		○			◎	
	健康スポーツ科学Ⅱ	○		○			◎	
	対人関係とメンタルヘルス	○		○			◎	
	健康とヘルスプロモーション	◎		○			○	
	栄養と健康	○		○			◎	
域学共生科目	地域学概論	◎				○	◎	
	土佐の歴史と文化	◎			◎		○	
	土佐の経済とまちづくり	○				◎	◎	
	土佐の自然と暮らし	◎		○			◎	
	土佐の食と健康	◎		○			◎	
	専門職連携論	◎		○			◎	
	チーム形成論	◎		○			◎	
	地域学実習Ⅰ	◎			○		◎	
	地域学実習Ⅱ	◎			○		◎	
域学共生実習	◎			○		◎		

ディプロマ・ポリシー&学修成果指標 ◎=学修成果の修得のために特に重要な科目 ○=学修成果の修得のために重要な科目 △=学修成果の修得のために望ましい科目		1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身に付け、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。	2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。	3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身に付けている。	4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身に付けている。	5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。	6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。	7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。
リテラシー科目	基礎演習	◎	◎		○			
	中国語基礎 I	○		◎		○		
	中国語基礎 II	○		◎		○		
	ドイツ語基礎 I	○		◎		○		
	ドイツ語基礎 II	○		◎		○		
	フランス語基礎 I	○		◎		○		
	フランス語基礎 II	○		◎		○		
	日本語 I	○	◎	◎				
	日本語 II	◎	○	◎				
	情報処理演習	◎		◎		○		
	文献調査論	◎				◎	○	
	基礎読書法	○	○					◎
	文化学部共通科目	エッセンシャル科目	文化哲学	◎				◎
文化人類学			◎				◎	○
文化と権利			◎			○		○
文化と裁判			◎		○	○		
公共哲学			◎			◎		○
民俗学			◎				◎	○
文化と経済			◎				○	○
日本文学概論			○				◎	◎
言語学概論			◎				○	◎
日本語学概論			○				◎	○
グローバル平和論		○				◎	○	
社会調査論		○	○			◎		
域学共生フィールドワーク						◎	◎	○
文化学課題研究ゼミナール I			◎			○	○	
文化学課題研究ゼミナール II			◎			◎	○	
文化学課題研究ゼミナール III		◎			◎		○	
文化学課題研究ゼミナール IV		◎				◎	○	
キャリア形成科目	キャリアデザイン論	◎			◎			○
	キャリア形成論	◎					◎	○
	企業実習			◎		◎		○

ディプロマ・ポリシー&学修成果指標 ◎=学修成果の修得のために特に重要な科目 ○=学修成果の修得のために重要な科目 △=学修成果の修得のために望ましい科目		1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身に付け、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。	2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。	3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身に付けている。	4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身に付けている。	5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。	6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。	7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。
文化学部専門科目 言語文化系 国際文化領域 日本語学領域	英語学概論	◎	○	◎				
	比較言語研究	◎		◎			○	
	対照言語学	◎		◎		○		
	言語教育実践論Ⅰ	◎		◎			○	
	言語教育実践論Ⅱ			◎		◎	○	○
	英語文法論			◎		○		◎
	英語ライティングⅠ			◎		○		○
	英語ライティングⅡ				◎		○	○
	英語音声学		◎	○	○			
	英語スピーキングⅠ		○	○	◎			
	英語スピーキングⅡ		○	○	◎			
	英語学専門演習Ⅰ	○	◎	○				
	英語学専門演習Ⅱ			◎			◎	○
	英文化・文学史	○			◎		◎	
	英文化・文学論	○				◎	◎	
	米文化・文学史	○				◎	○	
	米文化・文学論	○				◎	◎	
	異文化理解Ⅰ		○	○	◎			
	異文化理解Ⅱ					◎	◎	○
	異文化理解Ⅲ					○	◎	◎
	国際日本学		○	◎	◎			
	比較日本学		○	◎	◎			
	国際関係論	○	◎		○			
	国際開発論		◎		○			
	国際文化専門演習Ⅰ	◎	◎	○				
	国際文化専門演習Ⅱ		◎	◎				○
	日本語史			○	◎		◎	
	日本語音声学・音韻論		◎		◎			○
	日本語学講読		◎		◎			○
	日本語文章構成論	◎		◎				○
国語教育学講読Ⅰ		○	○	◎				
国語教育学講読Ⅱ		◎	○	◎				
日本語教育学概論	○	○			◎			
日本語教育教材論			○	◎	○			
日本語学専門演習Ⅰ	○	○		◎				
日本語学専門演習Ⅱ		◎		◎			○	

ディプロマ・ポリシー&学修成果指標 ◎=学修成果の修得のために特に重要な科目 ○=学修成果の修得のために重要な科目 △=学修成果の修得のために望ましい科目		1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身に付け、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。	2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。	3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身に付けている。	4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身に付けている。	5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。	6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。	7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。
言語文化系	基礎古典	○	◎	○				
	日本文学史（古典）	◎	◎	○				
	日本文学史（近代）	○	◎		◎			
	古典文学基礎講読Ⅰ	◎	○	○				
	古典文学基礎講読Ⅱ	○	◎	◎				
	古典文学講読Ⅰ	○	◎	○				
	古典文学講読Ⅱ	○	◎	◎				
	近代文学講読	○	◎		◎			
	現代文学講読	○	◎		◎			
	中国文学史	○	◎	○				
	中国文学講読（散文）	○	◎	◎				
	中国文学講読（韻文）	○	◎	◎				
	日本文学専門演習Ⅰ	○	◎	○				
日本文学専門演習Ⅱ		◎	○	◎				
書道	○	◎	○					
文化学部専門科目	地域文化論	◎	○		○			
	日本思想史	◎	○		◎			
	日本文化論	◎	○				○	
	地域文化資源論Ⅰ		○			◎	○	
	地域文化資源論Ⅱ				◎		◎	○
	文化政策論	◎	◎	○				
	男女共同参画社会論	◎			◎			○
	地域防災論	◎	○	○				
	住文化論				○	◎	◎	
	地域文化専門演習Ⅰ	◎	○	○				
	地域文化専門演習Ⅱ					○	◎	◎
	地域づくり論	◎	○				◎	
	地域産業論	○	○		◎			
地域分析論	◎	○		◎				
地方自治論	◎	○			◎			
NPO論	○	○			◎			
地域づくりフィールドスタディ	○	○			◎			
地域づくり専門演習Ⅰ	◎	○		◎				
地域づくり専門演習Ⅱ					○	◎	◎	

ディプロマ・ポリシー&学修成果指標 ◎=学修成果の修得のために特に重要な科目 ○=学修成果の修得のために重要な科目 △=学修成果の修得のために望ましい科目		1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身に付け、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。	2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。	3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身に付けている。	4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身に付けている。	5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。	6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。	7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。	
文化学部専門科目	観光文化領域	観光文化論Ⅰ	○	◎	○				
		観光文化論Ⅱ					◎	◎	○
		景観文化論	○				◎	◎	
		観光と自然環境	◎	○				○	
		観光文化フィールドスタディⅠ	○				○	◎	
		観光文化フィールドスタディⅡ		○			◎	◎	
		観光フィールド専門演習Ⅰ	○				◎	◎	
		観光フィールド専門演習Ⅱ					◎	◎	○
	観光まちづくり領域	観光学総論	○	◎			○		
		観光まちづくり論Ⅰ	○	◎	○				
		観光まちづくり論Ⅱ					◎	◎	○
		観光産業論Ⅰ	○	◎	○				
		観光産業論Ⅱ					◎	◎	○
		観光企画論	○			○	◎		
		観光まちづくりフィールドスタディⅠ	○		○	○			
		観光まちづくりフィールドスタディⅡ	○			◎			○
	地域文化創造系	観光まちづくり専門演習Ⅰ	◎	◎	○				
		観光まちづくり専門演習Ⅱ					○	◎	◎
		文化と人権	◎				○	◎	
		文化と統治システム	◎	◎			○		
		社会秩序と法	◎	◎			○		
		犯罪と法	◎	◎			○		
		情報化社会と法文化	◎				○	◎	
		地域社会と法文化			○	○	◎		
	現代法文化領域	現代法文化専門演習Ⅰ	○	◎	○				
		現代法文化専門演習Ⅱ					◎	◎	○
		生活と法文化	◎				○		○
		災害と法	○				◎		○
		ワーク・ライフ・バランスと法	○				○		◎
		労働契約と法文化	○				○		◎
社会保障と法文化		○				○		◎	
家族関係と法文化		○				○		◎	
生活法文化領域	生活法文化専門演習Ⅰ	○	◎	◎					
	生活法文化専門演習Ⅱ				◎	◎		○	